

「己の第六感を信じよ」

スイッチON!! GWのコロナ渦での巣ごもりからの寄り戻し凄まじい。ニュースで渋滞のシーンを見ると、本来の姿では喜ばしいが、ゆったりした時間も懐かしい。。インバウンドも経済活動も心の豊かさとのバランスが必要になる世界になっていくんだろうな～。

さて、西田先生のマルマガがネタにあります、必要なときに文章がはいってくるから頭の中で頻りに登場しています。ぜひ、共有して深掘りさせてください。

例え、母親が亡くなっていたとしても、母の声は脳内で聞こえるはず。おまえはいい子だね」「おまえが優しい子なのはお母さんがわかっているよ」「おまえを産んでよかったよ」などと言われた母の言葉が頭に浮かび、悲しませるようなことはできなくなります。

母の愛は防波堤です。

一番奥の脳、つまり魂は、いつ、どこで覚えたのかが全く分からない事まで覚えています。そしてそれは、直感という形であらわれるのです。

「虫の知らせ」など、理屈では説明できないインスピレーションを「第六感」と言ったりしますが、直感的に「その気になれない」「不安を感じる」というのは、魂からの警告だと言えるのです。

魂とは奥の脳になります。つまり、命を司る脳です。判断基準に命が含まれている脳が危険を察知するというわけなのです。だから、絶対に儲かるとわかっていたとしても、何となくその気になれないことは、やらないほうがいいです。損得だけで経営判断し、魂の警告を無視すると、必ず失敗します。

調子のよい企業が一気に失敗に陥るのは、このパターンが多いと言えるでしょう。ビジネスで戦術・戦略を考える場合は、様々なことを分析し、考え、仕組みをつくり出していきます。

これは、大脳新皮質で考えることなのです。ところが、矛盾しているように思われるかもしれないが、本能的な脳で意思決定をする場合は「できると思ったらやり、できないと思ったらやらない」ほうが正しい判断をしていることになるのです。

人生チャレンジ! という言葉に僕は、今回のメルマガで魂に問いかけることが重要であると再実感。僕はよく、旅先や外出先で神社とかを発見すると100円お賽銭にに入れて二礼二拍手一礼をしながら、神様と対話します。その行為が魂との会話なんだろうな～。

社会福祉法人 千歳会
理事長 左 敬真

